

# 日本神経精神薬理学会 第51回理事会（2011年度）議事録

日 時：2011年12月17日（土）14：00～17：00

場 所：コンベンションルーム・AP品川 会議室「N・0」

（〒108-0074 東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル 9F）

出席者：山脇成人（理事長）、池田和隆、石郷岡純、仲田義啓、西川 徹、野村総一郎、南 雅文  
山田清文 各理事、加藤進昌 監事、齋藤利和 アドバイザー

欠席者（委任状）：大熊誠太郎、大森哲郎、荻田喜代一、神庭重信、鈴木 勉、曾良一郎

中村 純、山本経之 各理事、馬場明道 監事、米田幸雄 アドバイザー

記 録：中川庸幸（事務局：学会支援機構）

冒頭に山脇成人理事長から前回（第50回）理事会議事録（案）および2011年度（第41回）評議員会／総会議事録（案）が提出され、異議なく承認された。

## I. 報告事項

### 1. 各種委員会報告

#### a. 総務委員会（池田理事）

以下の通り会員報告（2011年10月1日から2011年11月30日）がなされた。

会員数：1,252名（2011年11月30日現在）

内 訳：名誉会員 27名、功労会員 13名、評議員 179名、正会員 948名

学生会員 67名、賛助会員 19社

新入会： 9名

退 会：本人申出 3名

逝 去 1名

物 故 者 一般会員 大谷義夫先生 2011年8月16日 ご逝去

#### b. 広報委員会（池田理事）

報告事項は特になし。

#### c. 編集委員会（南 理事）

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

1. 名誉会員の紹介文の掲載のため、新名誉会員の先生方に原稿をお願いしている。

2. 小林 司先生、田所作太郎先生の追悼文の掲載のため、執筆依頼を進めている。

追悼文の掲載は、敬意を表し、雑誌の巻頭に掲載する。

3. 株式会社インフロント（広告代理店）から資料の提出依頼があった。

#### d. 財務委員会（大熊理事）

報告事項は特になし。

#### e. 国際学術委員会（大森理事）

報告事項は特になし。

#### f. 学術賞選考委員会（山田理事）

報告事項は特になし。

#### g. 研究推進委員会（曾良理事）

報告事項は特になし。

#### h. 倫理委員会（中村理事）

報告事項は特になし。

#### i. 長期計画委員会（石郷岡理事）

報告事項は特になし。

## II. 審議事項

### 1. NP・CNP 統合問題と学会の将来のあり方について（山協理事長）

長期計画委員会委員長の石郷岡理事から今回の理事会に先立って、以下の点について、委員長意見と合わせて、各委員へ意見募集をお願いしたことが報告された。

#### 1) CNP との合併について

- ・長期的には合併の方向性は堅持して、そのタイミングを図っていく。
- ・それまでは、合同年会の開催実績を積んでいく。

※上記の方向性を維持していくべきであるとの意見が大半であった。

※前回の合同委員会では、年会時のみでなく、別途委員会を開催し、議論を深めるべきとの意見が多数あったため、次回委員会の開催の準備をした方がよい。

#### 2) 合併までの方向性

a) 基本方針：学会の基本理念に立ち返り「基礎から臨床まで」という活動を再強化する。

#### b) 具体案

① 会員数の増加を図る〔臨床医、臨床の薬剤師は、いずれ合併になると思われ、CNPに入った人もいられる。周りの人に学会の趣旨を呼びかけて、再度会員数の増加を図ることが重要である。〕

② 学会活性化の鍵となる人（評議員・理事）の勧誘・増員

以下、③とも関連するが、学術集会のときだけでなく、日常の学会活動を活性化させるために、実績のある先生方にできるだけ関与していただく必要がある。臨床医としては、現在 NP に活発に関与してくださっている先生以外にも多くおられるので、基礎の先生も含め声をかけていく必要がある。

③ 委員会活動の活性化

個々の研究活動を学術総会で発表するだけでなく、日常の委員会活動を活性化し、必要に応じて社会に情報発信をしていくことによって、学会の社会的プレゼンスを高めていくことが必要である。

例 1) トランスレーショナルリサーチ推進委員会（仮称）：学会員の持つシーズを開発のプロセスに乗せるためどのような戦略がいいか検討する。

例 2) ベンゾジアゼピン問題検討作業部会（仮称）：先般厚労省から発表されたように、ベンゾジアゼピンが多剤使用されている問題について検討し、提言をまとめる。

以上の報告を受けて、理事会内で「NP・CNP 統合問題と学会の将来のあり方」についてフリーディスカッションを行った。

- ・NP 会員からも統合については、賛成意見が大半である。対等な統合を行うため学会が活性化（委員会活動を活性化し、社会に配信する）することが必要である。
- ・創薬に関する活動など NP の独自性を発揮する活動をすべきである。
- ・これまで統合については、双方の組織体制（任意団体・法人団体）が問題になっていた。形式上は吸収される立場となるが、具体的な統合までは時間もあるので、NP の法人化についても議論を進めてもよいのではないかと考える。
- ・国際対応については、NP が窓口としての活動をきちっと行うことが重要である。
- ・NP と CNP では、会員が求めているものが異なる。例えば、CNP は臨床の人たちが集まって、臨床に特化した議論を行いたい。NP は学問的な議論がしたい。といった形である。上記の相違点は、まさに合同年会との形で解決ができるのではないかと考える。
- ・NP の活性化には、若手の臨床医に入会してもらうことが重要である。
- ・NP も Nomenclature 委員会（対応委員会）を立ち上げる。これはまさに NP の特色を

生かした活動であり、このような活動を広く社会に発信していくことが重要である。

- ・トランスレーショナルリサーチ推進委員会（仮称）：学会員の持つシーズを開発のプロセスに乗せるためどのような戦略がいか検討する。学会としてもどの大学がどのようなシーズをもっているのか、把握していない。対応委員会で仕掛作りができれば、NPらしい活動ができるのではないか。

以上の意見が述べられ、今後の活動方針としては、社会貢献・国際対応・情報発信を充実させて、NPの独自性を発揮していくことが確認され、具体的な活動に向けて、検討していくことになった。

## 2. 合同年会について（石郷岡会長・仲田次期会長）

### 1) 第42回日本神経精神薬理学会（第22回日本臨床精神神経薬理学会と合同年会）

石郷岡会長から以下の通り年会準備状況について報告がなされた。

日 時：2012年10月18（木）～20日（土）

会 場：1. 栃木県総合文化センター／2. 宇都宮東武ホテルグランデ

会 長：石郷岡 純（東京女子医科大学医学部精神医学教室・主任教授）

- ・プログラムのアンケート結果、タイムテーブル原案が配布された。
- ・理事会や合同委員会は前日の10月17日（水）に開催するよう調整中である。
- ・本年は、役員改選年度となるため、評議員会／総会を10月18日（木）夕方に開催可能かどうかを要望・確認することになった。
- ・今回も統合に関する合同シンポジウムを企画し、開催時間も他のセッションと重ならないような枠を確保した。
- ・来年の沖縄合同年会のためにも、本年からNPとCNPがmergeしたプログラムを企画してもらうよう要望することになった。

### 2) 第43回日本神経精神薬理学会（第23回日本臨床精神神経薬理学会と合同年会）

仲田次期会長から以下の通り年会準備状況について報告がなされた。

日 時：2013年10月24日（木）～26日（土）（10月23日（水）は理事会・各委員会開催予定）

会 場：沖縄コンベンションセンター

会 長：仲田義啓（広島大学医歯薬学総合研究科薬学専攻医療薬学講座・教授）

- ・交通事情もあるため、最終日については、午前中（もしくは2日間で短縮する）までに行うなどの提案を行う。
- ・これまでのプログラム委員会は、前年度の学会の際に開催するのみである。今回、両大会長ともに広島ー沖縄の距離があることと、基礎と臨床で、これまで面識がなかった形での合同年会となるため、プログラム委員会を理事会でフォローする体制をとることが必要である。

## 3. CINP との連携（山脇理事長）

### 1) CINP への入会勧誘の依頼について

AsCNP（ソウル）で開催されたJapan Nightにおいて、CINP理事長もお招きし祝辞をいただいた。その際、CINPの入会についても強い勧誘と依頼があり、日本から50名以上の入会をお願いしたいとのことであった。その後、JSNPとして学会員に対して呼びかけを行い、現在までに80名近い入会申請が確認されている。

### 2) 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (Stockholm, Sweden on 3 - 7 June 2012) について

2012年6月3日～7日にて、CINP2012がストックホルムで開催される。2012年1月末がポスター演題登録の締切日となるため、日本からも多数の登録と参加をお願いしたいとの依頼がなされた。

### 3) Elections to Council 2012-2014

2011年12月4日～8日にハワイでACNP 50th Anniversary Meetingが開催された際、CINPの次期役員候補者選考委員会が開催され、CINP次期理事長の候補（CINPの委員会が2名を指名）に山脇先成人先生（JSNP理事長）が選考された。

現 CINP 理事会のアジア出身理事は3名（日本、香港、韓国）である。CINP としては、アジア地区を重視しており、今回の選挙は日本・アジアにとって非常に重要である。日本（JSNP）としても山脇先生を支援していくことを確認するとともに、対応組織として、有志による国際学会連携推進 WG を発足し、WG 長には JSNP 総務委員長が担当することになった。CNP および AsCNP への協力依頼についても WG で具体的な方針を検討し実行していくことが確認された。

#### 4. ECNP の Nomenclature 委員会への対応について（山脇理事長）

ECNP が主導となり CINP・ACNP・AsCNP を取りまとめて、Nomenclature 委員会が組織されている。同委員会は、向精神薬の新しい分類について、製薬会社主導からアカデミアが主導となるよう提言・活動がされている。多軸（5項目）で評価して製薬会社へその評価軸に準じて、分類してもらうよう提案が進められている。以上の動向から、アジア（AsCNP）としての意見をまとめる必要があり、これは個人的な意見ではなく、組織の意見として提案できる体制が必要である。以上のことから国内対応 WG の設置が提案され、承認された。人選については、引き続き検討する。

#### 5. ACNP との連携（山脇理事長）

資料に基づき、ハワイで開催された ACNP, CINP, ECNP, AsCNP, JSNP のリーダーシップ会議の報告がなされた。

2011 CINP/ECNP/CAN/AsCNP/JSNP Leadership Meeting

Thursday, December 8, 2011 7:00a.m. -8:00a.m.

Location: Queen's 4

Attendees: Michael Davidson : ECNP, Toshi Saito : JSNP, Shigeto Yamawaki : AsCNP

Hans Jurgen Moller : CINP

John Krystal, Eric Nestler, David Kupfer, Alan Frazer

Ronnie Wilkins, Sarah Timm

#### 6. AsCNP 活動への対応（山脇理事長・池田理事）

AsCNP 理事会において、セントラルオフィスは、事務局長に岩田仲生先生（藤田保健衛生大学）が就任されていることもあり、日本に設置することとなった。カウンセラーについては、各国推薦の人で承認された。学会誌については、KCNP の雑誌をオフィシャルジャーナルとしたいとの要望があったが、継続審議とした。第3回大会は、2013年に北京で開催される。

#### 7. 学術賞選考委員会修正案（学術賞の学術奨励賞への変更、論文賞の新設）について（山田理事）

資料に基づき（学術賞の学術奨励賞への変更、論文賞の新設）について報告がなされた。

第41回年会時の委員会において、論文賞選出規定（案）、学術奨励賞（学術賞）選出規定（案）、推薦書類（案）の委員会最終案の策定を行った。委員会で協議された報告・原案とともに、理事会で協議を行い、以下を修正の上、承認した。

##### 1) 論文賞の新設について

- (1) 「論文賞」から「優秀論文賞（Japanese Journal of Neuropsychopharmacology Prize 20\*\* Award）」に改める。
- (2) 賞状でなく「盾」とし、副賞の金額は、5万円とする。
- (3) 委員構成区分において、現在は、臨床系3名、基礎系5名となっているため、選考委員会人数は、臨床系5名、非臨床系5名とし、臨床系2名の委員を追加で選任し就任依頼を行う。
- (4) 2011年度掲載論文については、移行措置の問題が生じるが、以下のアナウンスをホームページおよび学会誌に掲載し、準備を進めることになった。

##### 【2012年 優秀論文賞について】

「2012年は、従来の「学術賞」からの移行期とし、受賞名は「優秀論文賞」となりますが、選考対象は、従来の学術賞同様に2011年発行分 Vol. 31 No. 1~5/6 の原著論文およびミニレビューを対象として、学術賞選考委員会で選考いたします。」

- 2) 学術奨励賞 (Japanese Society of Neuropsychopharmacology Young Investigator Award) について
  - (1) 3. 「対象」の記載は、「件」を「名」に変更する。
  - (2) 4. 「応募」の記載は、「推薦」に改める。
  - (3) 5. 「表彰」の賞状は、「盾」として副賞は10万円とする。

**【学術奨励賞について】**

「第1回受賞候補者の推薦を受付けます。推薦資格は評議員が有しております。申請期日は3月末日となります。別紙の規定および推薦書類をダウンロード (<http://www.asas.or.jp/jsnp/activity/gakujutsu.html>) いただき、書類を入手して下さい。多くのご推薦をお待ちいたします。」

- 3) 後日、臨床系委員については、以下の2名が推薦され、双方の先生から快諾を得た。  
井上 猛先生 (北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学)  
白川 治先生 (近畿大学医学部精神神経科学教室)

## 8. 会費滞納者について (山協理事長)

事務局から4年以上の会費滞納者一覧が提出され処遇について検討した。多年度未納者には、既に2011年度第3回会費請求時に納入依頼を行っている。対象者も159名と多いことから、会費滞納に関する以下の特例申請を設け、なるべく多くの方に会費を継続いただけるようアナウンスすることになった。

- 1) 3年間分 (2012年度分+未納会費2年分) の年会費をお支払いいただければ、それ以前の会費未納分のお支払いは免除する。
- 2) 手続きについては、所定の申請書類を事務局まで郵送かファックスで送付する。
- 3) 学会誌については、2012年度分 (Vol. 32) よりお送り致します。
- 4) 会員継続を希望されない会員におかれましては、退会届 (書式自由: 学会名、氏名、会員番号、退会意志の一文を明記の上) を事務局まで、メール、ファックス、郵送等でお送り下さい。

## 9. 事務局業務委託契約について

事務委託契約書 (案) が提出され、審議の結果、委託を継続することが承認された。

## 10. 新入会者希望者承認の件

2011年10月27日から2011年12月17日までに8名の入会申込者があったことが報告され、全員の入会が承認された。

## 11. その他

- 1) 日本生物学的精神医学会理事長の武田雅俊先生より、2013年6月23日から27日に京都国際会議場で開催される、第11回世界生物学的精神医学会国際会議 (The 11<sup>th</sup> World Congress of Biological Psychiatry: WFSBP) の後援依頼があり、承認された。
- 2) 仲田理事から来年は役員改選となる。これまで、理事長選任については、基礎と臨床で2年間交代として運営されてきたが、統合問題や国際対応など、学会の過渡期でもあるので、慣例に拘らず、適材・適所に臨機応変に対応していくべきであるとの意見が述べられた。

以上

平成23年12月17日 (土)  
日本神経精神薬理学会  
理事長 山協 成人